災害派遣医療活動 報告

熊本地震 DMAT活動報告

高梁中央病院（拠点：熊本済生会病院）
2026年8月1日～8月6日

活動場所	宇城保健所・避難所（宇城市）
周辺インフラ	断水のみ（他のライフラインは無事）

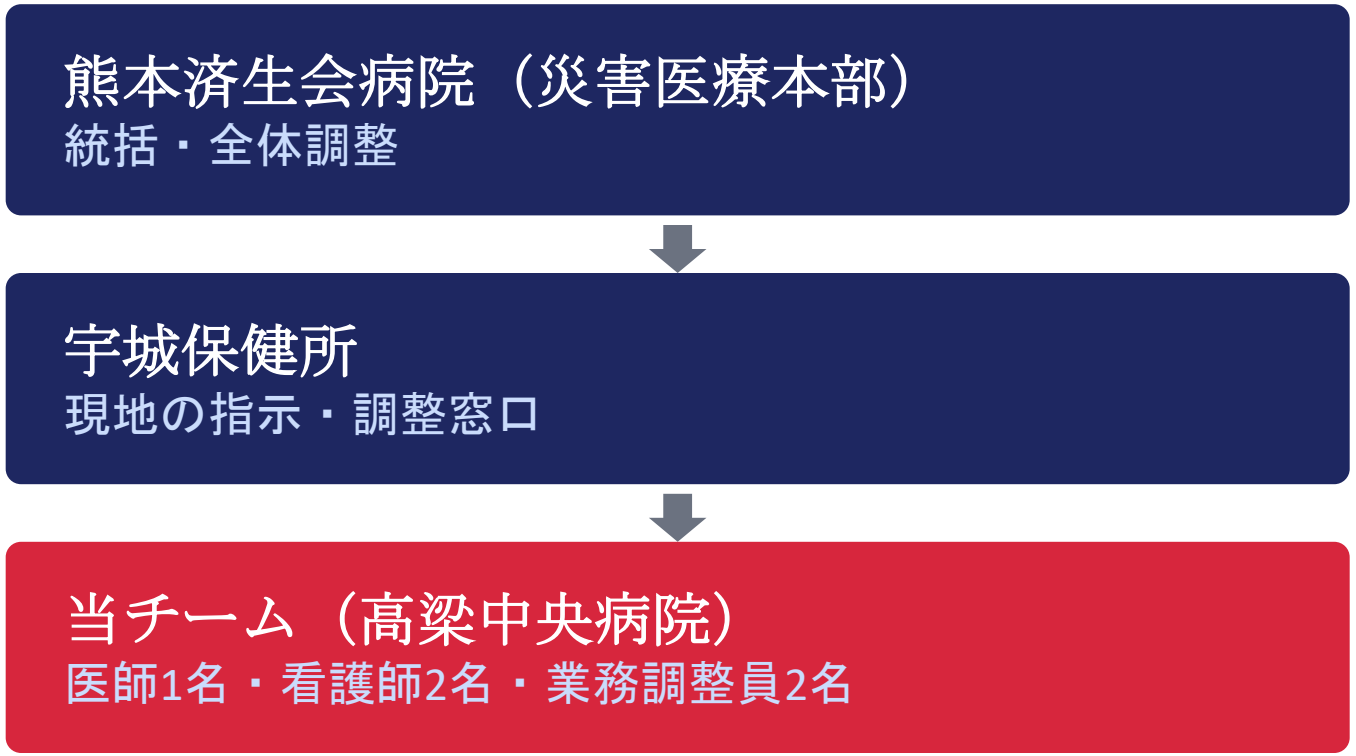
チーム構成（5名）

1名	2名	2名
医師	看護師	業務調整員



2 CSCA（指揮系統）

指揮命令系統



本部から宇城保健所に連絡が入り、保健所を通じて現地での指示を受けた。

3 活動内容（1日のタイムスケジュール）

業務調整員（ロジ）

- **9:00** 活動開始（保健所内）
- **9:10** クロノロ作成・保健師の業務支援
- **12:00** 昼食
- **12:30** 保健師の業務支援
- **17:00** 活動終了

医師・看護師

- **9:30** 保健師の依頼で訪問診療
- **11:00** 保健所内ボランティアの診察・処置
- **～17:00** 保健師の業務支援









4 注力したこと

1 避難者への対応

姿勢・接遇に配慮した。

2 保健所職員への配慮

職員も被災者の一人と意識して関わった。

3 体調管理

自分たちの体調管理に努めた。

5 失敗したこと・困ったこと・いざこざ

1 薬剤の温度管理

車内温度を考慮できず、ほとんど使用不能となった。

2 隊が分かれた際の報連相

報連相ができないことがあった。

3 方言

方言が理解できなかった。

6 工夫して乗り越えたこと

1 ニーズの拾い上げ
先方の負担が増えないよう配慮して活動した。

2 水の確保
近隣の井戸から生活排水用の水を確保した。

3 即席処置室
保健所の一室に設置し、診察・処置を行った。

7 課題・反省点（これからに還元できること）

1 薬剤の保管

保管方法・保管場所に注意する。

2 薬剤の厳選

持参する薬剤を厳選する。

8 後方支援体制

1 連絡体制

ロジに直接連絡があり、安全確認や軽い報告を行った。

2 発災時の安全確認

現地で発災した際、隊全体の安全確認をしていただいた。

9 今回の活動での気づき（今後岡山でも準備すべきこと）

1 平時からの他団体との連携訓練

発災時の連携のため、平時から合同で訓練する必要がある。

10 活動前と活動後の心境の変化

活動前

「自分にできるのか」「現地の方に嫌な気持ちを持たれないか」と不安だった。

活動後

平時への感謝と、平時からの訓練の大切さを実感した。